

## なぜ生活科か

一般に幼児期は、自分の生活を離れて知識や技能を一方向的に教えられて身に付けていく時期ではなく、生活の中で自分の興味や欲求に基づいた直接的・具体的な体験を通してこの時期にふさわしい生活を営むために必要なことが培われる時期であることが知られています。このことから幼児教育では、「自発的な活動としての遊び」は学びそのものであるという認識のもと、遊びを中心とした幼児期にふさわしい生活の中で、幼児の発達を促していくことを大切にしています。生活科は、教科間の横のつながりと、幼児期からの発達の段階に応じた縦のつながりとの結節点です。低学年児童の特性及び生活科の特質を十分に理解しながら実践していくことが求められます。

## 生活科を中心に

低学年における教科等の学習は、発達の段階等を踏まえ、関連付けて展開していくことが大切です。それは、本来児童の学びとは個別の教科内で閉じるものではなく、それぞれの学びが相互に関連付き、つながり合うものだからです。そこで教師は、生活科と他教科等において、学びがどのように関連付けていくのかを意識しながら、教材研究を行うことが大切です。児童の思いや願いを生かした学習活動を展開するために、「単元配列表」を作成するなど、国語科、音楽科、図画工作科はもちろん、低学年の全ての教科等と生活科との関連を図り、指導の効果を高めていきます。

## 低学年児童とは

学習指導要領ではこれまで以上に低学年教育の充実が求められています。教師は、低学年児童の特性を、実際の姿を通してながら丁寧に理解していくことが大切です。

### 低学年児童の特性

- 心と体を一体的に働かせて学ぶ
- 直接関わる活動や体験を好む
- 対象を自分との関わりで一体的に捉える
- 情緒的・認知的側面の発達の変容が大きい
- 空間的・時間的な認識や感覚が徐々に発達する
- 技能の習熟状況等に個人差がある
- 個別な学習活動から協働的な学習活動ができるようになる発達の時期にいる 等

# ゼロからのスタートじゃない

— 生活科の役割を実現する授業実践をめざして —

生活科は、単に理科と社会を足した教科ではありません。生活科は、一人一人の思いや願いを実現していく一連の学習活動の中で、児童が自発性を十分に発揮し、対象への気付きを得たり見方や考え方を生かしたりしながら、よりよい生活を自ら創造していくことを目指しています。これは、幼児教育と非常に近い方向であり、低学年の教育課程を編成する上でも、大切な視点と言えます。充実した活動や体験の中で得られた喜びや自信は、生活科の学びに留まらず、他教科や中学年以降の学び、さらには、教室を越えた生活の土台となっていくのです。本資料では、生活科の役割について一層の理解を図ることを目的に、「生活科の内容」を概要図としてまとめられています。生活科の授業実践に係る研究会はもとより、幼児教育の質的向上及び小学校教育への円滑な接続のための研修会等においても、学習指導要領解説と並べ、広くご活用いただければ幸いです。

## 「環境を通して行う教育」をつなぐ

生活科の目標の冒頭に「具体的な活動や体験を通して」とあります。これは、体全体で身近な環境に直接働きかける児童一人ひとりの創造的な行為を生活科では重視しているからに他なりません。低学年児童は、その発達特性から、対象と直接関わり、対象とのやり取りをする中で、資質・能力が育成されていくのです。実際の授業等においては、児童の興味・関心を踏まえながら、学習対象との出会いの場や環境構成の工夫を心掛けるとともに、児童の思いや願いがさらに膨らむような学習活動を展開していくことが大切です。

幼児教育は、「環境を通して行う教育」を基本としており、保育者に支えられながら幼児が自分の力で生活や遊びを創っていきけるよう環境（※）を構成しています。幼児期の遊びを通じた総合的な学びから小学校教育への円滑な接続を図るためには、学習環境を、幼児教育の視点・児童（学び手）側の視点で構成・再構成していく実践が求められます。（※環境とは物的な環境だけでなく、教師や友達との関わりを含めた状況全てである。「幼稚園教育要領解説より」）

### 例「環境構成をポイントに生活科単元をつくる」

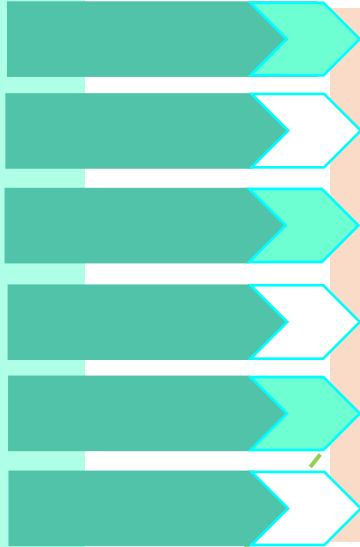


図：倉岡（2021）

「環境を通して行う教育」から  
小学校教育への接続

具体的な活動や体験

問いかけ  
共感  
尋ね返し  
言葉かけ  
教師による丁寧な見取り



思考力・判断力・表現力等の基礎

知識及び技能の基礎

学びに向かう力、人間性等

気づきの質の高まり = 深い学び  
気づきとは、「対象に対する一人一人の認識」

図2：深い学びを実現するイメージ

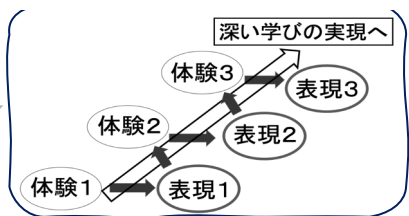


図1：単元や日常の中で何度も繰り返される学習過程の例

繰り返す  
これらが相まって  
安定的で持続的な態度へ

内容の組合せ  
合科的・関連的な指導を見通す  
(例) 単元配列表  
幼児期の経験との連携

成就感  
手応え

満足感  
自信

気づき

気づき

気づき

個別の気づきに関連付く

自分自身への気づき

身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、それらの違いや特徴を見付けることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わることに気付くとともに、それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする。

### 身近な自然に (と) (を)

「身近な自然」とは  
おしゃれな色の  
落ち葉を見つけない

- 繰り返し関わることのできる自然
  - 四季の変化を実感するのにふさわしい自然
- 公園、川、土手、林野原、海、山、生き物、草花、樹木、水、氷雨、雪、風、光 など

環境構成に配慮  
諸感覚を使って・繰り返し関わる

大切なことは、日常的に自然に触れる機会を通して、幼児が季節の変化に気付いていくようにすることである。  
(引用：幼稚園教育要領)

### 季節や地域の行事に (を)

「季節や地域の行事」とは  
▶ 季節の変化と関わりをもつ地域の行事  
・七夕や端午などの節句  
・立春や立秋などの節気  
・正月などの伝統行事 など

学習のきっかけが生まれることなどの視点で学習環境を見直す



図1：単元や日常の中で何度も繰り返される学習過程の例

- 直接触れ合うこと
- 繰り返し触れ合うこと
- 興味をもつこと
- 十分に味わうこと
- 出かけること
- 実際に関わること

同じ性質や変化があることを自覚すること

見付ける 比べる 十分な体験

異なる特徴や違いがあることを自覚すること

たどえる 見通す 十分な体験

時間の変化や繰り返しがあることを自覚すること

## 気付きの質の高まり = 深い学び

気付きとは、「対象に対する一人一人の認識」

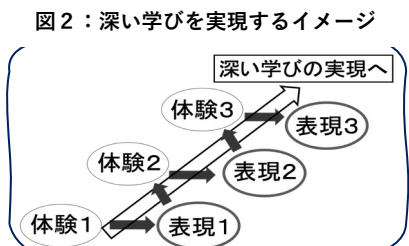


図2：深い学びを実現するイメージ



### 気付き

個別の気付きが関連付く

身近な自然や季節、地域の行事の共通点や相違点に気付くこと

- 身近な自然の様子に気付く
- 自然や地域の行事の特徴に気付く

季節の移り変わりに気付くこと

- 自然の変化に気付く
- 季節や地域にちなんだ行事があることに気付く

季節の変化と自分たちの生活との関わりに気付くこと

- 自然が自分の生活の変化を生み出していることに気付く

自然との触れ合い 行事との関わり

- 気付いたことを毎日の生活に生かすこと
- 暮らしを楽しく充実したものにしようとする

変化 快適さ 協力 心地よさ 清々しさ 自然のよさ

繰り返す これらが相まって 安定的で 持続的な態度へ

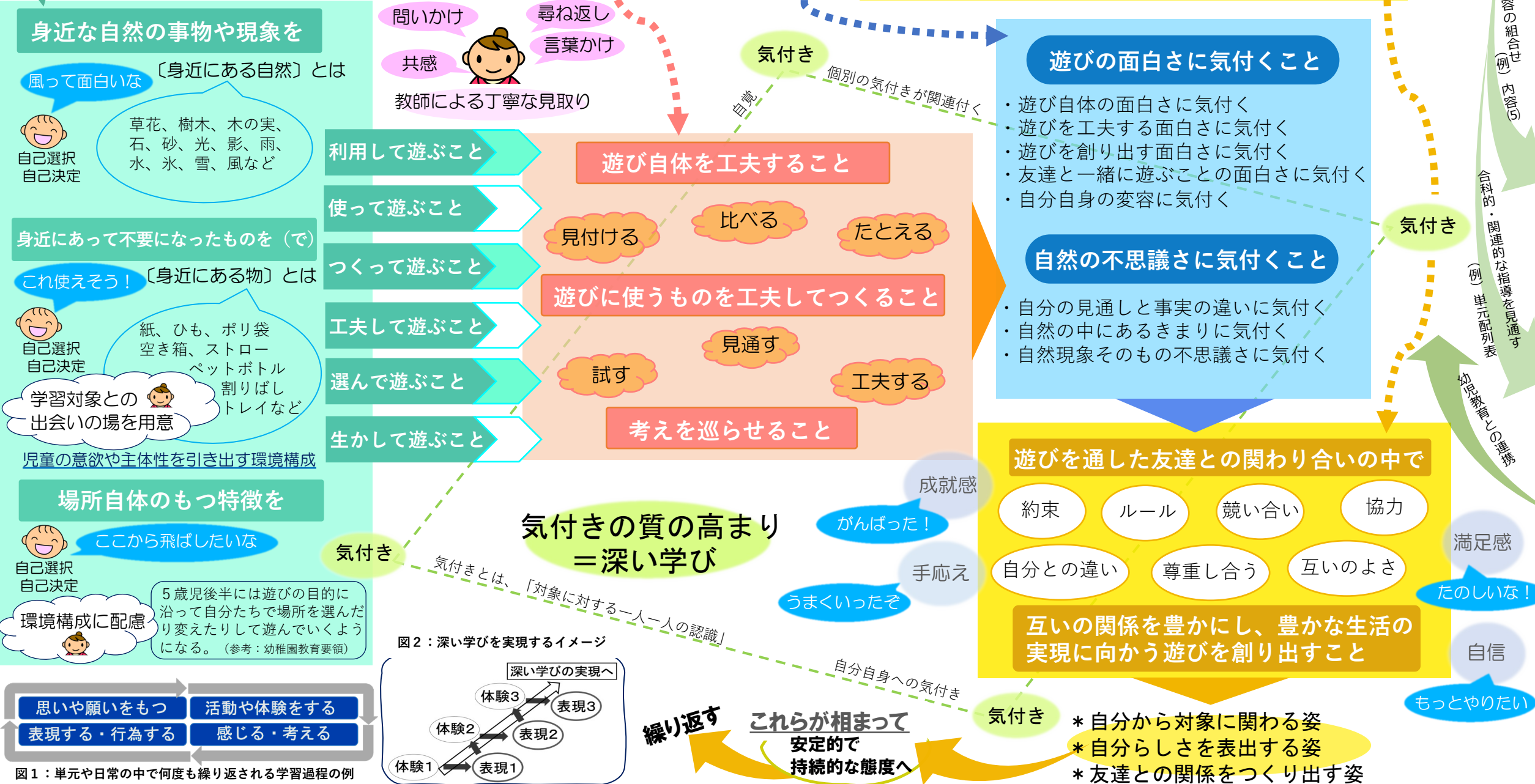
- \* 自分から身近な自然に関わる姿
- \* 自分の生活に取り入れ生かす姿
- \* 自分たちの生活を楽しく工夫する姿

内容の組合せ (例) 内容(5)(6)(7)(8) 総合的・関連的な指導を見通す (例) 単元配列表 幼児教育への理解

成就感 うまくいった! 手応え そうだったのか

満足感 面白いな! 自信 もっと探したい

遊びや遊びに使う物を工夫してつくり出すことができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創りだそうとする。



内容の組合せ (例) 内容(5)

学科的・関連的な指導を見通す (例) 単元配列表

幼児教育への理解

- \* 自分から対象に関わる姿
- \* 自分らしさを表出する姿
- \* 友達との関係をつくり出す姿

繰り返す これらが相まって 安定的で 持続的な態度へ

自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合い交流しようとする。

### 多様な人々と (に、から)

〔自分たちの生活や地域の出来事〕とは

- ・学校や家庭、地域での生活の様子
- ・心に残る出来事
- ・生活科における出来事 等々

雨の日は水をあげちゃだめ 放っておくの？ 雨雲さんがお水をくれるよ

伝え合いは、観察や製作など活動や体験の途中でも行われる (教室に戻ると話が広がりにくいことを念頭におく)

### 言葉に限らない多様な方法で

〔多様な方法〕とは

- ・言葉、絵、動作、劇化、説明する
- ・写真や具体物の提示
- ・表情やしぐさ、態度
- ・ICTなど

- 表現の場を適宜位置付ける
- ▶ 表現することによって
    - ・確かな気付きとなる
  - ▶ 交流することで
    - ・気付きが共有される
    - ・新たな気付きが生まれる
    - ・様々な気付きが関連付けられる



図1：単元や日常の中で何度も繰り返される学習過程の例

- 交流し合うこと
- 直接話しかけること
- 伝え合うこと
- 表現すること
- 聞き取ること
- 触れ合うこと

相手のことを思い浮かべること

相手の立場を気にかけること

伝える内容や伝える方法を決めること

見つける 比べる 工夫する 見通す 試す

たとえる

思考や表現を一体的に繰り返す活動が大切

伝えたいことが伝わるかなあ

相手意識 目的意識

### 気付きの質の高まり = 深い学び

気付きとは、「対象に対する一人一人の認識」

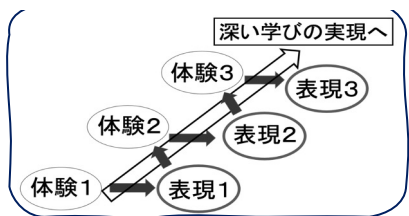


図2：深い学びを実現するイメージ

- 自分のことが相手に伝わるよさや楽しさが分かること
  - 伝えたいことが相手に伝わるよさや楽しさが分かること
  - 相手のことを理解するよさや楽しさが分かること
  - 相手の伝えたいことを理解するよさや楽しさが分かること
- 気付き
- 継続的に関わり、共に活動を進めていくことができる対象を設定することが大切
- 伝え合う場面を何度も設定することが大切

### 自ら協働的な関係を築いていこうとすること

- ・学校から地域へと関わる対象を少しずつ広げる
- ・言葉による方法のほかに、多様な手段を活用する

努力 積極性 交流の楽しさ 相手意識

伝えたいという強い思いや願いを心に抱くよう、活動や体験を充実させることが重要

- \* 互いの関係を一層豊かにしていく姿
- \* 進んで触れ合い交流していこうとする姿

繰り返す これらが相まって 安定的で 持続的な態度へ

内容の組合せ (例) 全ての内容と関連

総合的・関連的な指導を見通す (例) 単元配列表

児童・教員との関係

達成感 できたぞ! 自信 伝えたいな